

## 中国における国際財務報告基準 (IFRS) との コンバージェンス (統一化) : 挑戦と帰結

Convergence of Accounting Standards with IFRS in China: Challenges and Consequences

H26海人13

**派遣先** アメリカ会計学会 (AAA) の2014年度年次大会  
(アメリカ・アトランタ)

**期間** 平成26年8月3日～平成26年8月8日 (6日間)

**申請者** 名古屋大学 大学院経済学研究科

博士後期課程2年 苗 馨 允

### 海外における研究活動状況

#### 研究目的

本研究の目的は、Gernon and Wallace (1995) のコンテクスチュアル・フレームワーク (contextual framework) を用いて、社会的、組織的、専門的、政治的及び会計の文脈に従って、中国における国際財務報告基準 (IFRS) の全面適用に支障が生じうる諸制度要因を明らかにし、また中国政府のコンバージェンスに向けた対応が他国とはなぜ異なり、何がユニークなのかを解明することである。

#### 海外における研究活動報告

現在、世界中に多くの国が会計基準の国際化の流れに乗り、IFRSを自国の会計基準としてそのまま受け入れた。しかし、会計基準、および会計実務は地域・国レベルの経済環境、資本市場監督システムの整備、会計専門家教育などの制度要因との間で、相互的な影響があると思われる。それゆえ、IFRS適用上の初期条件が国ごとに異なれば、たとえ世界でただ一つの会計基準が適用されても、同じ経済取引に対して、同じ会計処理がされることが保証さ

れないと考えられる。会計制度の多様性、またそれが会計基準の国際化に与える影響を解明することが会計基準の国際化の時代における喫緊の課題であるといえる。そこで、本研究では、中国における会計基準のIFRSとのコンバージェンスを巡る諸問題に関する研究を通して、会計制度の多様性およびそれが会計基準の国際化に与える影響を明らかにしようとする。

本研究では、Gernon and Wallace (1995) のコンテクスチュアル・フレームワーク (contextual framework) を用いて、歴史的、社会的、文化的、経済的、専門的および政治的文脈に照らして、中国における国際財務報告基準 (IFRS) の全面適用に支障が生じうる諸制度要因について緻密な分析が行われた。その分析により、中国における経済環境、資本市場、会計プロフェッションをはじめとしたインフラストラクチャーの整備状況がアングロ・アメリカン国と大きく異なり、IFRSの正確な実施に支障が存在していることが明らかにされた。例えば、中国の上場会社は株式発行による資金調達をするため、あるいは上場廃止を回避するため、利益調整へ強いインセンティブを持っている。しかも、上場会社は上場していない支配株主 (親

会社)との内部取引を行い、さらに内部取引における公正価値の不正利用により、利益調整をする能力を持っている。有効な資本市場監督システムが整備されていない中国において、IFRSの適用による公正価値測定の拡大、および管理者の自由裁量権の増加は、上場会社の利益調整行動、さらに不正会計をもたらす可能性がある。中国の監督局が不正会計を防ぐためにかかるコストが高くなりかねない。また、中国の公認会計士は、詳細な規定を設ける会計制度に親しんでおり、原則主義のIFRSの適用に必要な教育や訓練が欠如しているため、IFRSに対する一貫した解釈および適切な判断ができないと思われる。さらに、中国では、2006年まで、公正価値測定の適用が禁止されていたため、中国の公認会計士は、公正価値測定に対する厳正な監査を行うことに必要な教育や経験が欠如していると思われる。それゆえ、中国の現在の制度的環境において、公正価値測定が拡大されれば、監査は十分に機能できない可能性があるため、財務報告の信頼性を損なう可能性が高いと考えられる。

本研究は、財務報告のコンバージェンスに対して、以下のような貢献が期待される。まず、本研究は、財務報告基準の表面的なコンバージェンス (*de jure convergence*) は、必ずしも会

計・監査実務の実質的なコンバージェンス (*de facto convergence*) を保証するものではないことを明らかにした。それに基づいて、実質的なコンバージェンスを達成するために、会計実務を巡る各国の独特の制度的環境を無視してはいけないことを示唆する。さらに、本研究では、中国政府が中国の独特な会計環境を踏まえつつ、企業・経済システムへの影響を最小限にとどめ、中国における経路依存を優先し、慎重にIFRSとのコンバージェンスを進めていることが明らかにされた。この点で、本研究は日本をはじめとする各国がいかに積極的に自国基準の良さをアピールしながら、IFRSとのコンバージェンスの適切な方法を検討してゆくことに示唆を与えらると思われる。

この派遣の研究成果等を発表した  
著書、論文、報告書の書名・講演題目

Miao, X. "Applying Accounting Ecology Framework to a Holistic Analysis of Chinese Accounting Environment", 『経済科学』(名古屋大学) (forthcoming)。

学術誌：『経済科学』

論文名：Applying Accounting Ecology Framework to a Holistic Analysis of Chinese Accounting Environment

進捗度：レフェリーからのコメントが得られ、論文を修正・再提出しています。